

# 『中国「軍事強国への夢」』

劉 明福 著

峯村健司 監訳      加藤嘉一 訳

2023年9月      文春新書

## 劉明福とは何者か

1951年生 現在 中国人民解放軍国防大学教授 上級大佐

1969年入隊 国防大学軍隊建設研究所所長など歴任

2010年 著書 『中国の夢』 出版

**周近平の政権の政治スローガンに採用**

**「中華民族の偉大な復興の実現」**

国家・民族・人民が三位一体となって目指す政治スローガン

『中国の夢』は、アメリカン・ドリームをもじっている

**中華人民共和国建国100年にあたる2049年までに**

**米国と並ぶ強国となり、21世紀中に**

**「中国が世界ナンバーの国になる」という構想**

## 劉明福の生活

質素 解放軍の官舎、同じ紺色のジャンパー、時計や装飾品はゼロ、

食事 近所の食堂 もったいないから食べ残さない

## 汚職撲滅

2009年 加藤嘉一が劉明福から聞く

中国軍にとっての脅威は米軍でもなく自衛隊でもない。

## 腐敗こそが解放軍を破滅に追い込む敵だ。

習近平政権が発足したら最優先課題として動く

「汚職内容報告書」 2000から5年間の軍幹部の汚職

## 周近平はトップになった後腐敗撲滅キャンペーンを展開

制服組トップ 軍事委員会副主席 徐才厚、郭伯雄 失脚

日本の読者へ

考えていること三つ

- 1、 強軍の夢 2049年から世界一になる**
- 2、 統一の夢 2049年には台湾は祖国へ**
- 3、 世界の夢 人類運命共同体**

アメリカはアジアに対し、日中を共食いさせようとしている

古代中国は2000年にわたり、世界一流の強国であったが、

日本を侵略したことがない。

**日本は、中国の強大化をチャンスとし、アメリカと中国の架橋と**

**なり、中立国となるべきである。**

習近平 2012年11月15日 党中央委員会総書記・党中央軍事委員会主席

2013年 3月14日 国家主席・国家中央軍事委員会主席

## 第1章 習近平の強軍思想とは何か

2012年 18回共産党大会で政治スローガン

**「中国の夢」政治宣言** 実現のためには **「強軍の夢」軍事宣言**

マルクス・レーニン主義の理論革新 時代と共に変革、革新

革新 習近平強軍思想 国際安全保障と経済的利益に適合する

強固な国防と強大な軍隊建設



# 解放軍の戦略的思考

## 1、海外用兵 積極的防衛戦略への転換

従来：本土防衛、誘敵深入、ハリネズミ作戦

今後：国連の平和維持運動、国際人道主義に基づく救援活動

災害救助活動、反テロリズム作戦、シーレーンの安全確保

海外の国益を守る解放軍 攻撃と防御の戦闘能力を備えた軍隊

## 2、制海権をめぐる争奪戦

中国海軍：近海から遠海、列島線を通り越して大洋へ

強大な海軍建設の必要

中国の領土である釣魚島（尖閣諸島）、南沙諸島は、日本、

ベトナム、フィリッピン、マレーシアに侵入、占領されている。

「小さな岩礁」を「大きな岩礁」、これを「基地化」した。

海上権益を守ることに可能にした歴史的快挙であった。

### 3, 宇宙空間の時代 世界観から地球観、宇宙観へ

アメリカは、 1960年代 ケネディ 「宇宙を制した者が地球を制する」

1980年代 「スターウォーズ計画」 1990年代 「ミサイル防衛計画」

1997年 連合航空司令部 「2020年構想」

宇宙と核を後ろ盾として構築した戦略的理論

中国は農耕時代に先進的であったが、海洋時代に遅れをとった。

だからこそ、「宇宙の時代に遅れるわけにいかないのだ」

## 第3章 強軍化事業への道

### 中国強軍化—6つの理由

#### ①、中国は最大の社会主義国家だから

- ・ 国家が侵略され、転覆され、分裂される危険
- ・ 改革、発展、安定が破壊される危険
- ・ 特色ある社会主義の発展プロセスが中断される危険

②、中国は世界の大国の中で唯一、統一を実現していない国家だから

台湾の独立に反対し、統一を促進し、国家統一を実現するためには  
大きな知恵と力量が求められる。

サッチャーは、強大となった中国に香港を返還するしかなかった。

国家の統一のためには、最終的には強大な軍事力が必要なのだ。

③、 大国の中で、周辺的安全保障環境が最も複雑な国家だから

係争中の領土のうち多くを実効支配できていない。

米国や日本は、「封じ込め作戦」を展開している。

強大な軍事力こそが平和外交の強固な後ろ盾となり、平和的に問題を解決することをバックアップするのだ。

④、 中国は世界で最も発展が速い国だから

今後、中国がどれだけ発展しても永遠に覇権を求めることはなく、如何なる国にも脅威を与えない。しかし、中国が世界平和を守るためには、強大な軍事力が後ろ盾とならねばならない。

⑤、 中国は強軍化のための戦略的チャンスを迎えているから

第一段階：建国から20年余り

経済的基盤は弱かったが、軍事費に多く投資した。

第二段階：改革開放以降20年間

経済発展のため、軍隊は「忍耐」という方針を貫徹した。

「富国」を推進したが、強軍は遅れをとった。

第三段階：習近平主席が、「中国の夢」と「強軍の夢」を提示して

以来、総合的な国力が増強されるなかで、「富国」と

「強軍」の一体化を進めた軍隊の建設は新たな段階へ

- ⑥、 国連安保理の常任理事国であり、世界平和を守り、重大な責任を担う国家だから国際的に責任を担って貢献を果たすためには、世界平和と共同的発展を守ることができる**強大な軍事力**を持たなければいけない。



## 現代の軍事危機—三つの深刻な不均衡

一つめ 米国軍事力による中国包囲は「集団が個体と対峙する」状況を形成

二つめ 中米軍事力の深刻な不均衡 武器装備は20年遅れ軍事費が4分の1

三つめ 30年以上にわたる台頭は主に経済面であり、軍事面の台頭ではない。

米国による軍事的封鎖、軍事的包囲、軍事的封じ込めに対処できていない。

孫文から習近平へ — 4人の偉人にとっての「海軍の夢」

## 第4章 習近平国家安全戦略の4大転換

### 4大イノベーション

#### 1、「国家安全保障」の歩み

生存問題 → 平和問題 → 経済安全保障 → **アジア太平洋の安全保障**

#### 2、4大イノベーション

- ① 「国家安全委員会」 新設
- ② **概念 軍事だけではなく、政治、文化、経済**
- ③ 体系の構築
- ④ 特徴 国内「人民性」 **国外「国際性」**

### 3、国家安全委員会 リーダーシップ体制のイノベーション

#### 2014年 中国国家安全委員会 設立

- ① 戦略の創新と実施
- ② 法整備と拡充 「国家安全法」採択
- ③ 政策の細分化

危機、突発事件への対処 社会矛盾の解決への対処

民族の団結のための政策 国家の統一や領土紛争

サイバーセキュリティや海洋安全保障に関する政策

国境周辺地域における政策

4、 伝統的安全保障から総合的安全保障へ

伝統的：軍事侵略と政治転覆

非伝統的：政治、国土、軍事、経済、文化、社会、

社会技術、科学技術、情報、生態、資源、核

5、 人民の安全を中心に据える 安全保障の本質

中国共産党と人民解放軍の役割は「人民への奉仕」

6、 政治の安全を根本に据える 安全保障の核心

イデオロギーの安全 マルクス主義の主導的立場

「和平演変」封じ込め 「カラー革命」の抑制と防止

## 7、経済の安全を基礎に据える

科学技術の現代化と経済のグローバル化

科学技術、情報、金融、環境、食料、遺伝子、知的財産権

## 8、軍事・文化・社会の安全を基礎に据える

ソフトパワー 「文化の安全」

米国・西欧諸国の「文化侵略」によりソ連解体

東欧の革命 これを中国でも狙っている

## 9、地域と国際社会の安全の促進 運命共同体の構築

アジアの安全保障体系の確立

## 第5章 **反台湾独立から祖国の完全統一へ**

米国は19世紀に大規模な国家統一戦争に踏み切った

断固たる決心と払った甚大な代償を見よ

### **1、統一は平和より尊い**

**統一の方法は、 平和的統一と武力統一**

**平和的手段によって統一ができないときに、平和のために統一を犠牲にはできず、放棄してはならない。**

**武力統一には巨大な代償を払う。しかし、「中国統一戦争」という偉大な旗印を掲げて、武力統一を実行しなければならない。**

## 2、「米国統一戦争」 甚大な犠牲と巨大な代償

### ① 予測困難な戦争終結

リンカーンは国家統一のために粉骨砕身の  
戦略的気概を持っていた

### ② 英、仏、スペイン中立 多数の欧州国家は南部支持

## 3、～ 5、台湾統一について続く 省略

## 6、中国統一史 平和的統一は稀有

### ① 古代史における10回の統一戦争

秦、西漢、東漢、西晋、随、唐、北宋、元、明、清、

- ② 大規模作戦 台湾独立を粉碎し、中国を統一する  
大規模戦闘 必至

**8、統一は銃口から生まれる。台湾問題解決の前提は  
「平和的統一」ではなく「武力的統一」**

9、対台湾開戦 中国が70年間行使していない権力

10、台湾の解決法 決断するのは米国ではなく中国

11、 ～ 16、**台湾統一不退転の決意が続く**



## 第6章 イデオロギー戦で打ち勝つために

### 1、西側の「報道の自由」には惑わされない

報道や宣伝工作は、党に忠誠を誓った人間の手中に置く

### 2、イデオロギーの3大地帯を占領する

「紅色地帯」 中国共産党のイデオロギーに賛同する地帯

「灰色地帯」 賛同する可能性のある勢力

「黒色地帯」 反対する勢力

### 3、サイバー戦線 世論闘争の最前線

習近平は2015年にサイバー上の優位を強調

#### 4、「文化冷戦」

米国は、中国共産党と解放軍に対して大規模なネガティブキャンペーンを展開している。思想の防衛線を築機、政治的免疫力を強化する。

#### 5、「論争しない」は通用しない

論争し、闘争し、攻撃しなければならない。

米国は韓国に「高高度防衛ミサイル」を配置。

日本は東シナ海や釣魚島（尖閣諸島）に対して断続的に挑発して  
くる。

## 第7章 新時代の中国が直面する8つの戦場

これらの背後には米国の影があり、実質的には米国との競争と闘争である。

1、東北戦場 朝鮮半島

2、**東シナ海戦場 「日本の軍事力は絶え間なく向上しており中国と対立関係が続いている。中国は、在日米軍基地を攻撃する可能性が非常に高い」中国は主権を守るために戦争をする。**

3、**台湾海峡戦場**

2019年習近平「台湾同胞へ告ぐ書」

**平和的統一という未来を勝ち取りたい。しかし、武力行使を**

**放棄しない。いかなる外部干渉も容認しない。**

米国統一戦争が好例である。

- ・ 自信 軍事費 中国は台湾の1.5倍以上
- ・ 時間表 米国は習近平の本気を理解 焦りと恐怖
- ・ 広い視野 台湾海峡 東シナ海、南シナ海は一本

4、南シナ海戦場 主権防衛線の正当性

中米には、戦略上の戦場 持久戦の覚悟と一線を交える準備

5、南西戦場 第2次中印戦争をどうやって回避するか？

米国が「インド太平洋戦略」を重要視するようになった。

6、北西戦場 チベット、ウイグルとの闘争は戦争になるか？

「チベット大自治区」の設立

「新疆ウイグル自治区」西部大開発戦略にとって重要拠点

戦略的資源の重要基地

7、香港戦場 「反中、反共」の拠点になること容認せず

軍事力を発動し、国家の主権の維持が求められる

8、**シーレーン戦場 有事に封鎖されてはならない**

中国経済の対外依存度は60%以上

中国の対外原油依存度は55%

輸入石油の90%は海上輸送

米国ランド研究所「米中戦争が勃発した場合 中国のほぼ  
全ての貿易を寸断できる」

戦略的シーレーンは中国の経済と国民生活に関わる核  
心的利益 解放軍はシーレーンという戦場で勝たねばな  
らない。

## 第8章 世界一流の軍隊になるための戦略

### 1、新中国の目指す強軍

第一世代解放軍 政権奪取 第二世代解放軍 国防軍

第三世代解放軍 習近平時代に解放軍を世界最強軍団にする。

「中国の夢」と「強軍の夢」は補完関係 富国強軍

世界情勢の大変革期

一つ目、大国関係は全方位競争

二つ目、グローバルガバナンスのシステムの変革

各国が国際ルールを作って相互に調整する方式

三つ目、欧州中心から「米国中心」そして「アジア中心」へ

四つ目、総合的国力の競争

◎ 歴史的チャンス 千載一遇の歴史的契機

世界一流の軍隊とは

- ・ 戦場に二番手は存在せず

強軍化のための

第一段階 2012年～2020年

機械化と情報化

第二段階 2021年～2035年

軍事理論、軍隊組織、軍事要員、武器装備の現代化

第三段階 **2036年～2049年**

**世界1流の軍隊**



## 第9章 科学技術の振興こそが強軍化への道

現代化軍隊とはハイテク化軍隊

拳国体制という制度的な優位性

中央軍事委員会の下に 「科学技術委員会」 新設

「中央軍民融合発展委員会」 新設

専門家集団 人材の育成と活用

「伝家の宝刀」を持つ 防御と攻撃

「両弾一星」 **核爆弾 + 大陸間弾道ミサイル 人工衛星**

一流の科学技術者 中国100人余 世界の4.1%

米国

世界の4.2%

英才を集め育成、活用に注力の必要

軍の指導幹部の必要要素

政治的頭脳、軍事的頭脳、科学的頭脳

#### 4、 富国強兵の鍵となる軍民融合

中国の国防は全人民による国防 軍隊と人民は一体

富国と強軍—統合 発展と安全—調和 経済と国防—統合

**軍民融合を 国家大戦略に格上げ**

成果：航空機エンジン、ガスタービンエンジン、深海探査艇

南シナ海南南沙諸島の島嶼におけるインフラ建設完成（基地化）

海洋、宇宙、サイバー分野 火星探査、一帯一路空間情報回路

**人材育成**：2016年 軍採用1万人近い募集 著名大学卒増

2017年 地方大学から直接選抜

## 第11章 世界一流軍隊実現の要は海洋にあり

**新しい世界観 陸地の視野を超えた海洋観**

海洋総面積 3、5億平方メートルキロメートル

地球総面積の71% 宝庫

海洋に眠る鉱物資源と生物資源 陸上の1000倍

採掘可能石油埋蔵量 約1350億トン、天然ガス約140億トン

陸地の埋蔵量の51%、42%

ガスハイドレード 98%は海洋に埋蔵、

世界の海水 塩、カリウム、ヨウ素、臭素、金、ウラン

孫文 「制海権について、自ら主導権を握れば生き残り、他者に奪われれば滅びる」

## 中国は6つの海洋権益を持つ

国家管轄海域の海洋権益、世界のシーレーンを利用する権益、公海で生物資源を開発する権益、国際的海底における富を共有する権益、海洋安全保障をめぐる権益、海洋科学研究をめぐる権益

中国は一人当たり資源量は世界平均よりも低い

海に向かって新たな境界を切り開いていく必要がある

## 習近平の海洋戦略

「近海防御型」 → 「近海防御型+遠海護衛型」

中国の海洋利益は、今や、インド洋、大西洋、北極、南極

中国が海洋戦略において解決しなければいけない歴史的任務

周辺国家との海洋権益をめぐる紛争

国連海洋法条約が中国に付与する海洋権益を行使保護

法に基づいて海洋権益の境界線を切り拓いていくこと

中国海軍の夢 世界一流の海軍を建設する

陸権時代から海権時代へ

**海戦は未来戦争の主戦場**

海洋権益のぶつかり合い

北朝鮮、韓国、日本、フィリッピン、マレーシア、ブルネイ、  
インドネシア、ベトナム

**2012年以降、釣魚島における権益を守るための闘争積極化**

**東シナ海で防空識別圏を設定して支配を常態化させることで、**

**日本の釣魚島の一方的支配を打破した。**

## 第12章 21世紀の人民解放軍は国土内に留まらず

1981年の国連総会を機に、中国は軍事力を海外へ向け始めた  
世界の平和と発展のための解放軍の派遣は貢献している

習近平が論じる

「二つの死守」 国家の主権と安全 世界の平和と発展

「二つの推進」 **一帯一路の共同建設**と人類運命共同体の構築

「二つの創造」 中国人民の豊かな生活と未来の創造

**世界で人類運命共同体**という豊かな未来の創造

国際政治経済における新秩序構築には「国際軍事新秩序」が不可欠

「国防」は、中国内に留まってはならない

国際情勢をめぐる混乱、テロリズム、海賊活動、自然災害、

国際市場、エネルギー資源、シーレーンの安全



・ 全方位の対外開放、一帯一路の建設・・・

国益の拡大とともに、海外権益の安全の確保の必要

### 解放軍の軌跡

第一段階 1949年～1981年 一兵も出さず

第二段階 1949年～2012年 徐々に海外進出

**第三段階 2012年～積極化ジブチに海外保障基地**

国連平和維持活動の主要派遣国へ

1982年から2017年まで

延べ 35000人の兵を派遣した。

1990年 国連休止監視機構に5人のオブザーバー

1992年 カンボジアに平和維持軍大隊

2007年 国連西サハラ市民投票特派員司令官に趙京氏が

2008年 3隻の軍艦をアデン湾、ソマリア海域に

2015年 習近平が国連総会で宣言

8000人の平和維持待機部隊を組織する

中国最初の海外軍事基地 2017年 ジブチに設立

戦略上の要衝 戦略的シーレーンの安全確保

対テロリズム      ジブチに軍事基地経済の恩恵

ジブチには 米国、フランス、日本（2009年から）の  
海外軍事基地を置いている

## **アフリカへ進出する動機と利益**

アフリカへ数百億ドルの投資を行っている

中国の権益保護    国連の平和維持活動

アフリカと中国との関係

- ・ かつて、両者は西側大国によって侵略と略奪を受けた
- ・ 民族の解放と独立のための闘争を支援してきた

- ・ 未来志向 アフリカの発展のために中国の台頭が必要

「国際新型軍事文明」を創造する

- ・ 英国モデル 植民地主義
- ・ 米国モデル 覇権主義
- ・ 中国モデル 人類運命共同体の構築

解放軍の3大貢献 先進的モデル 米国は中国に学べ

- ・ 国連平和活動において、中国が主な出資国、出兵国
- ・ 反テロリズム闘争に参加
- ・ シーレーンの安全を守ってきた

インド洋のアデン湾、ソマリア海域

## 世界一流の軍隊に必要な「世界行動能力」

- ・ 空軍の役割も大
- ・ 海軍が主力

海軍保障基地は重要な戦略拠点となる

西太平洋や北インド洋のほか重要な海峡における

軍事的プレゼンスを高めていかねばならない

「世界行動能力」を高めるには、

**軍隊思想政治工作や軍事指揮工作が求められる**